

第7回 創薬支援ネットワーク協議会 議事概要

■日時：平成28年9月30日(金) 10時00分～11時00分

■場所：中央合同庁舎8号館 8階特別大会議室

■出席者：

議長：内閣官房 和泉健康・医療戦略室長

構成員：内閣府 大島国立研究開発法人日本医療研究開発機構担当室次長（同室長代理）

文部科学省 小松研究振興局長

中川政策評価審議官（関総括審議官代理）

厚生労働省 神田医政局長

福田大臣官房技術総括審議官

経済産業省 西村生物化学産業課長（安藤商務情報政策局長代理）

保坂大臣官房審議官

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 末松理事長

榎林創薬支援戦略部長

国立研究開発法人理化学研究所 松本理事

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 米田理事長

国立研究開発法人産業技術総合研究所 松岡理事

日本製薬工業協会 畑中会長

参考人：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 竹中プログラムディレクター

■概要：

1. 開会

○冒頭、和泉健康・医療戦略室長（議長）から、以下のとおり挨拶があった。

- ・ 本日の協議会では、各法人から活動状況及び前回の協議会での宿題としていた事項についてご報告いただくとともに、来年度に向けた予算要求の状況等について確認する。

2. 議題

1) 創薬支援ネットワークの活動状況（資料3-1）

○AMED末松理事長、榎林創薬支援戦略部長より、創薬支援ネットワークの活動状況と第6回創薬支援ネットワーク協議会の宿題事項について報告されたうえで意見交換があった。

- ・ 昨年の導出活動をきっかけに創薬支援戦略部としても産業界とのクロストークに力を入れ、各社の窓口担当と支援シーズの評価等さまざまな観点で話をしてきたが、引き続き、産業界にも創薬支援ネットワークへの前向きな対応をお願いしたい。
- ・ 現在多くの製薬企業は重点領域を深掘りして創薬研究を行っている。創薬シーズの導出活動を行ううえでは、企業の重点疾患領域とアカデミア創薬シーズの対象疾患がマッチしていることが望ましい。
- ・ 創薬支援ネットワーク・アドバイザリーボードは、個別テーマの事業性等を評価する

のではなく、全支援テーマにおける低分子医薬品と抗体医薬のバランスや、医療現場のニーズに沿った支援を行っているか等について助言などいただくこととしている。

○ 和泉議長より、次の発言及び指示があった。

- ・ 創薬支援ネットワークでは導出は 0 件であるが、AMED 全体では医薬品、医療機器、再生医療分野で 10 件以上導出されている。研究者と企業のマッチングの問題については創薬支援ネットワーク等を通じて企業にも応援してもらいたい。
- ・ 創薬支援ネットワークで長く支援しているにも関わらずステージの進展がない支援テーマについて、どのステージで停滞しているのかを整理し、取扱いを検討すること。
- ・ 創薬コーディネーターを企業からの退職者ではなく、出向という形での採用の可能性を検討すること。
- ・ 現在行っている「創薬支援ネットワークに関するアンケート」の結果及びそれを踏まえた対応について次回の協議会で報告すること。
- ・ 支援撤退後 3 年で支援撤退テーマをホームページから削除することはよいが、その後であっても企業から問合せがあった場合は AMED から情報を提供できるような仕組みを検討すること。

○ 理化学研究所の松本理事、医薬基盤・健康・栄養研究所の米田理事長、及び産業技術総合研究所の松岡理事より各研究所における支援活動状況が報告された。(資料 3-2、3-3、3-4)

○ 和泉議長より、次の発言があった。

- ・ 現在 AMED では、AMED 研究開発マネジメントシステム (AMS) を構築しているところだが、各独法や研究所がどのような設備や技術を保有しているかについても DB 化して活用してはどうか。

2) 創薬支援ネットワーク関連の平成 29 年度概算要求について(資料 4)

○ 事務局より、創薬支援ネットワーク関連の平成 29 年度概算要求について報告された。

○ 各省より、創薬支援ネットワークのための予算の確保状況、及び創薬支援の取組について報告された。

3) その他

○ 全体を通して、和泉議長より次の発言があった。

- ・ PMDA から構成員もしくはオブザーバーとして本協議会の議論に参加してもらってはどうか。

3. 閉会

以上